
目次

5. 点検・保守	1
5.1 管理業務に関する設定	1
5.1.1 管理メニュー画面への切り替え	1
5.1.2 利用者情報 登録 [ICカード式]	2
5.1.3 利用者情報 登録[暗証番号式]	6
5.1.4 利用者情報 削除[ICカード式]	9
5.1.5 利用者情報 削除[暗証番号式]	11
5.1.6 在空状況の確認	13
5.1.7 運転モード（月極モード／時間貸しモード）の設定	15
5.1.8 音量調整	16
5.1.9 外置きターンテーブル（オプション）の作動確認	17
5.1.10 出庫後自動扉閉モードの設定	19
5.2 日常の点検	20
5.2.1 運転方式の切り替え（自動⇒手動）	21
5.2.2 出入口扉の作動確認	22
5.2.3 運転方式の切り替え（手動⇒自動）	25
5.2.4 日常の点検リスト	28
5.2.5 パーキングの点検	28
5.2.6 清掃	29
5.3 定期保守	30
5.3.1 当社のメンテナンス体制および保守契約の概要	30
5.4 部品の交換周期	31

5. 点検・保守

パーキングを故障なく、安全にお使いいただくためには、運転前に行う日常の点検（清掃を含む）が必要です。

また、保守点検事業者によるパーキングの不具合の調査および調整・部品交換を行う定期保守が必要です。



5.1 管理業務に関する設定

パーキングの引渡しの際、あらかじめ管理業務に関する内容が設定されています。状況に応じて、設定された内容を変更することができます。

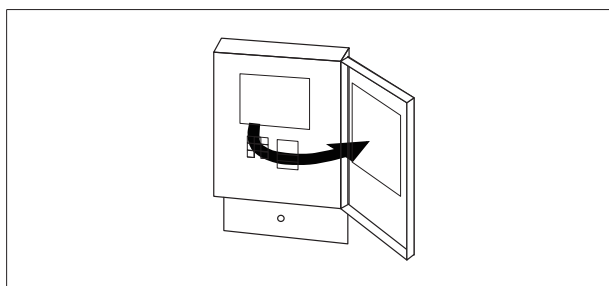
5.1.1 管理メニュー画面への切り替え

設定された内容を変更するときは、次の手順でメニュー画面へ切り替えてください。

1. 本体操作盤を開けます。



タッチレス操作盤には本体操作盤はありません。手順2. より操作してください。



2. 運転方式切り替えキーを〔手動〕または〔M〕に切り替えます。

手動-OFF-自動



【LC操作盤】



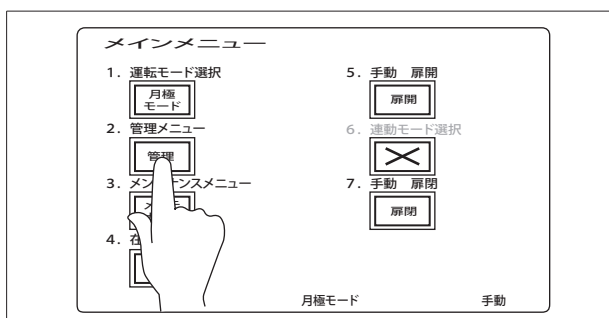
【タッチレス操作盤】

3. メインメニュー画面の〔管理〕ボタンをタッチします。

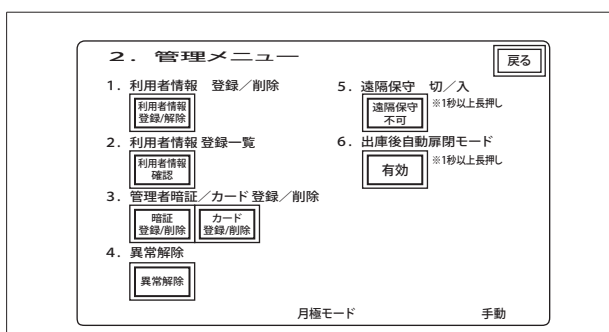
※表示が異なる場合があります。



LC操作盤には「扉閉」ボタンはありません。

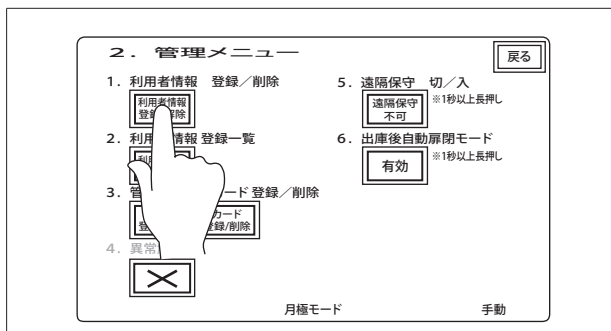


4. 管理メニュー画面が表示されます。
※表示が異なる場合があります。



5.1.2 利用者情報 登録 [ICカード式]

1. 管理メニュー画面の「利用者情報登録/削除」ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。



2. 利用者情報登録/削除画面が表示されます。
※表示が異なる場合があります。

3. グループNo.の▲▼をタッチして、グループNo. を指定します。
※表示が異なる場合があります。
グループNo. とは、収容台数に割り当てられるNo. となります。



4. カードID下の1～4の枠をタッチして、登録サブNo.を選択します。
※表示が異なる場合があります。
登録サブNo. とは、グループNo. に登録できるNo. を示します。最大登録可能なカードIDは4となります。

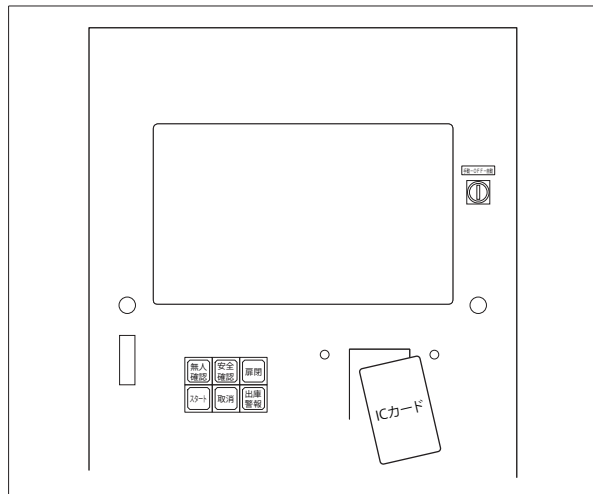
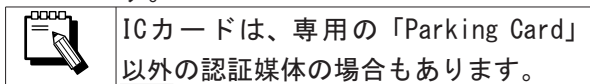


5. [カード] が選択されていることを確認します。
※表示が異なる場合があります。

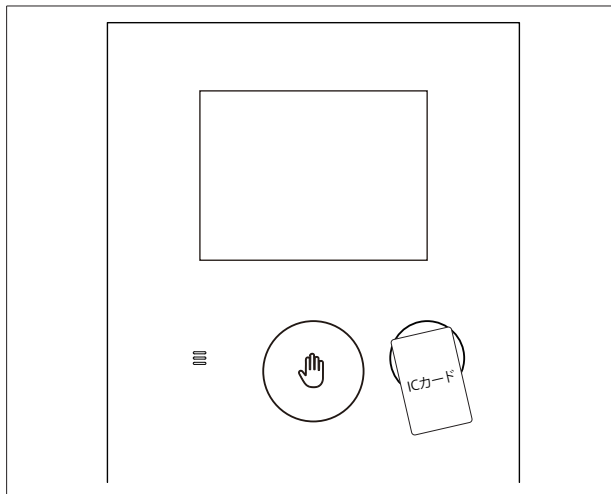
5. 点検・保守

5.1.2 利用者情報 登録 [ICカード式]

6. ICカードリーダーにカードをかざします。

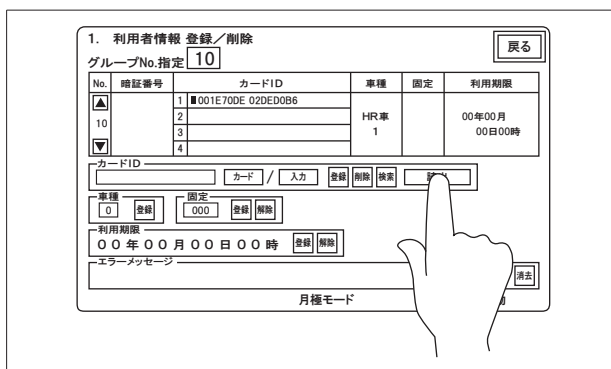


【LC操作盤】

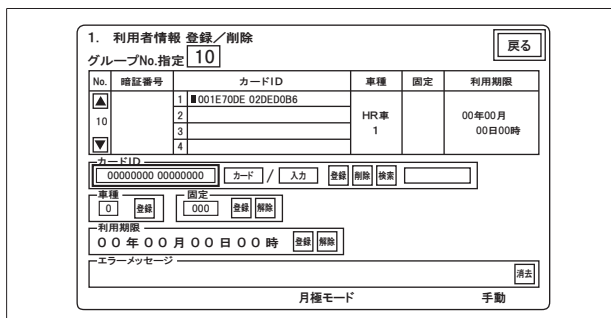


【タッチレス操作盤】

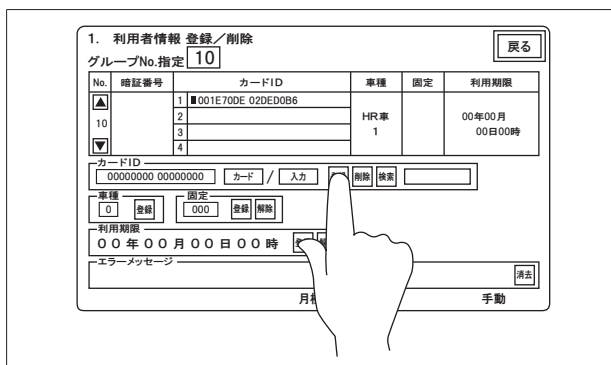
7. 「読出」ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。



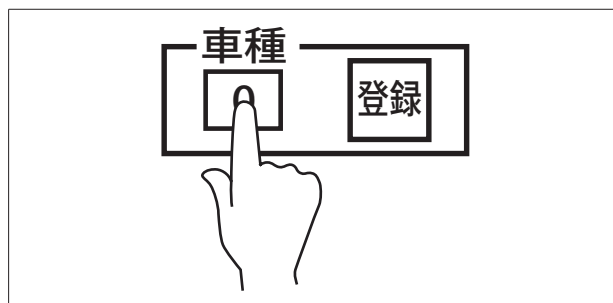
8. カードIDに16桁の番号が表示されます。
※表示が異なる場合があります。



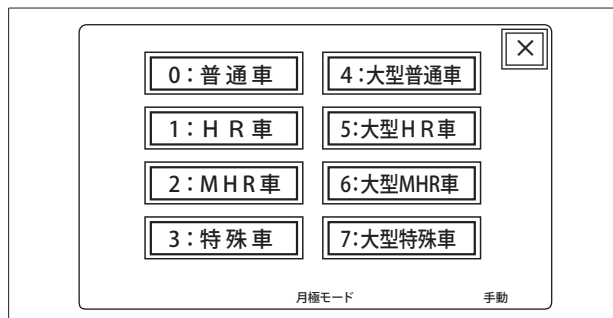
9. カードIDの「登録」ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。



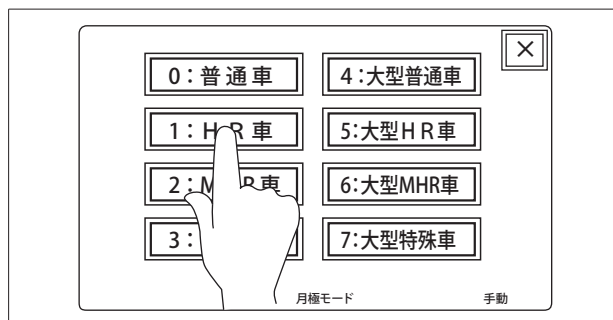
10. 車種の数字をタッチします。



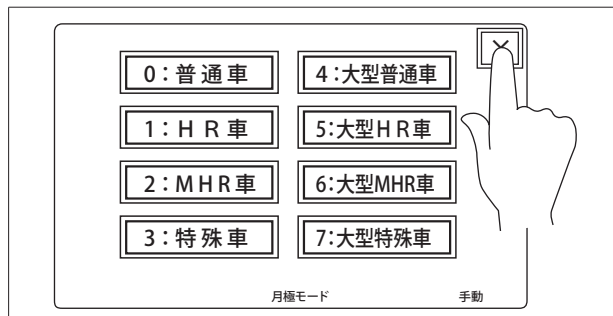
11. 車種登録画面が表示されます。



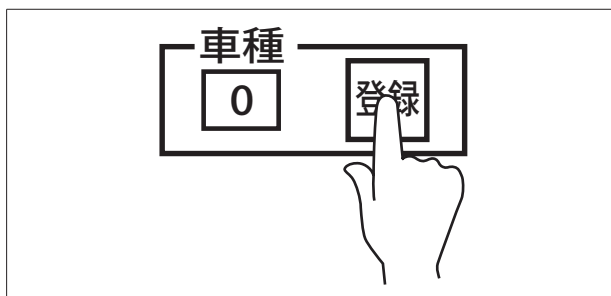
12. 登録する車種を選択します。
(右図は、1:HR車を選択した例となります。)



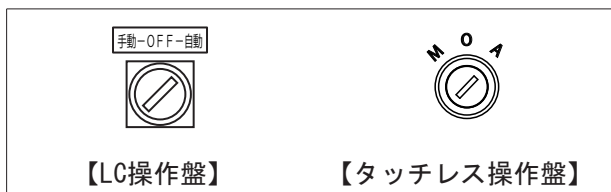
13. 車種登録画面の「X」ボタンをタッチします。(画面が閉じます。)



14. 車種の「登録」ボタンをタッチします。



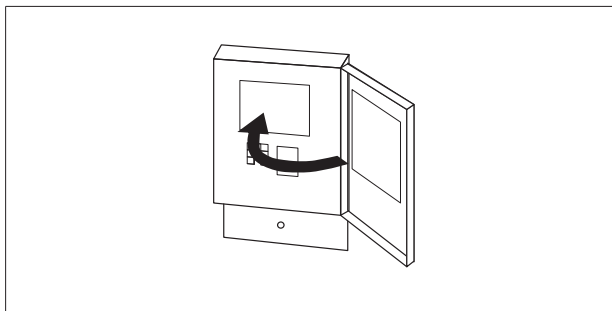
15. 運転方式切り替えキーを「自動」または「A」に切り替えます。



16. 本体操作盤扉を閉めます。

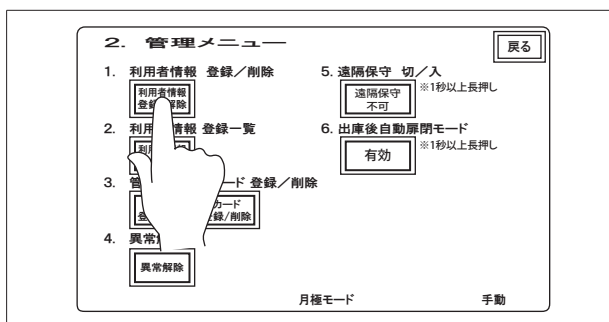


タッチレス操作盤には本体操作盤扉はありません。手順15.にて完了となります。



5.1.3 利用者情報 登録[暗証番号式]

1. 管理メニュー画面の「利用者情報登録/削除」ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。



2. 利用者情報登録/削除画面が表示されます。
※表示が異なる場合があります。

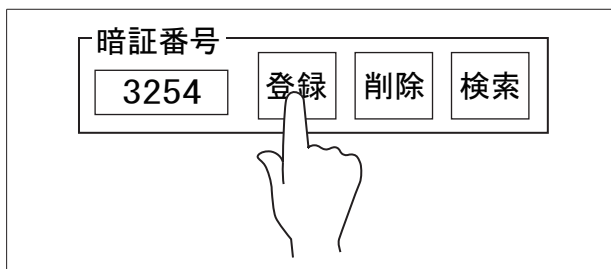
3. グループNo.の▲▼をタッチして、グループNo.を指定します。
※表示が異なる場合があります。
グループNo.とは、収容台数に割り当てられるNo.となります。



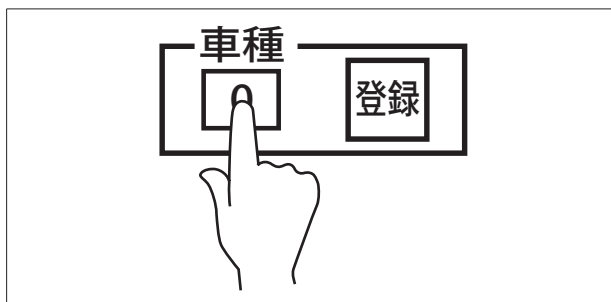
4. 暗証番号の数字をタッチします。

5. 4ケタの暗証番号を入力します。

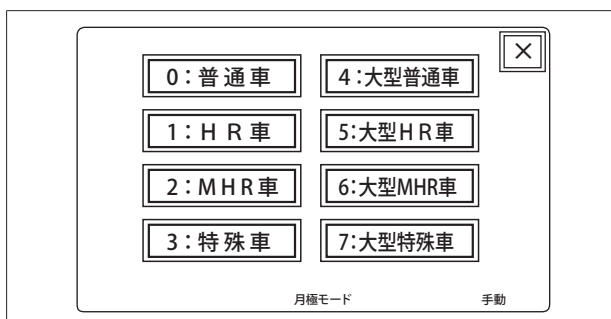
6. 暗証番号の [登録] ボタンをタッチします。



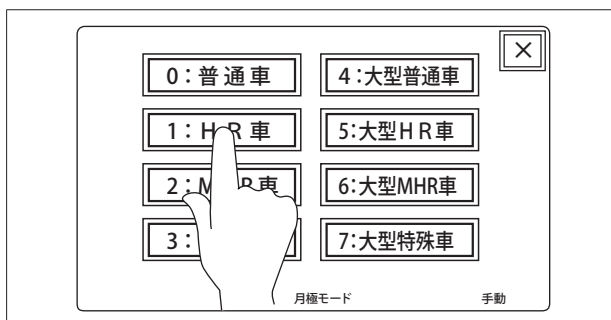
7. 車種の数字をタッチします。



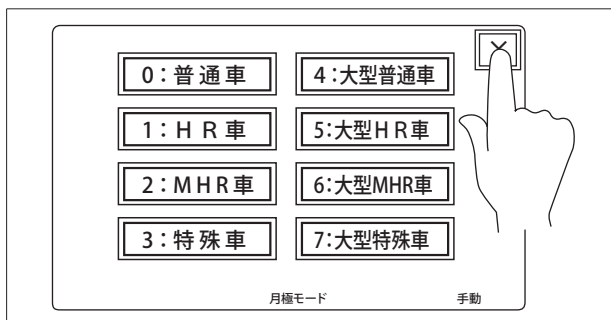
8. 車種登録画面が表示されます。



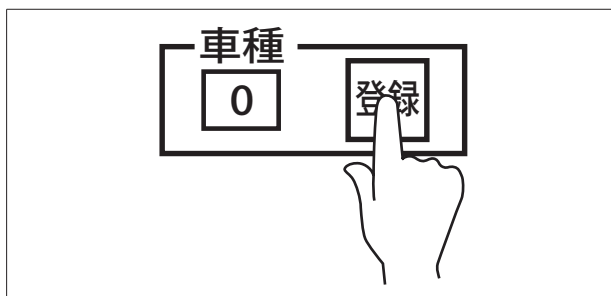
9. 登録する車種を選択します。
(右図は、1:HR車を選択した例となります。)



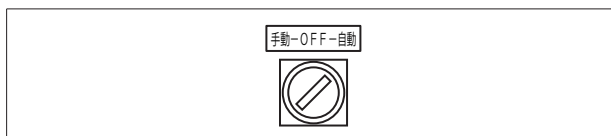
10. 車種登録画面の「X」ボタンをタッチします。(画面が閉じます。)



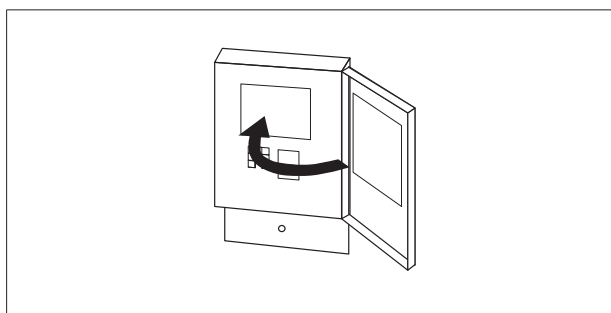
11. 車種の「登録」ボタンをタッチします。



12. 運転方式切り替えキーを「自動」に切り替えます。

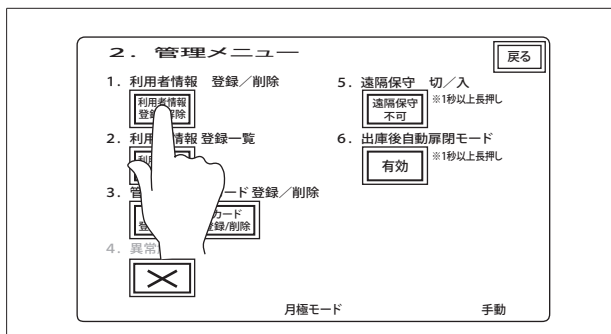


13. 本体操作盤扉を閉めます。



5.1.4 利用者情報 削除[ICカード式]

1. 管理メニュー画面の「利用者情報登録/削除」ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。



2. 利用者情報登録/削除画面が表示されます。
※表示が異なる場合があります。

No.	カードID	車種	固定	利用期限
1	001E70DE 02DED0B6	HR車 1		00年00月 00日00時
2				
3				
4				

3. グループNo.の▲▼をタッチして、グループNo. を指定します。
※表示が異なる場合があります。

グループNo. とは、収容台数に割り当てられるNo. となります。

4. カードID下の1～4の枠をタッチして、登録サブNo.を選択します。
※表示が異なる場合があります。

登録サブNo. とは、グループNo. に登録できるNo. を示します。最大登録可能なカードIDは4となります。

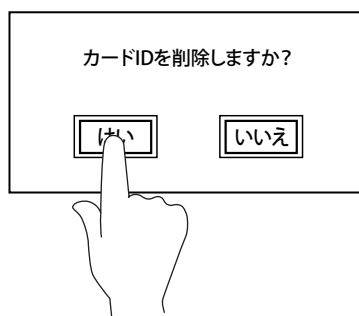
5. カードIDの「削除」ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。

5. 点検・保守

5.1.4 利用者情報 削除 [ICカード式]

6. 画面が切り替わりますので“はい”をタッチします。

 ICカード削除操作で“はい”をタッチした後、“在車カードですが削除しますか？”と表示された場合、必ず“いいえ”をタッチし、ICカード削除操作を中止してください。



7. 運転方式切り替えキーを [自動] または [A] に切り替えます。



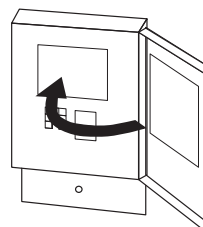
【LC操作盤】



【タッチレス操作盤】

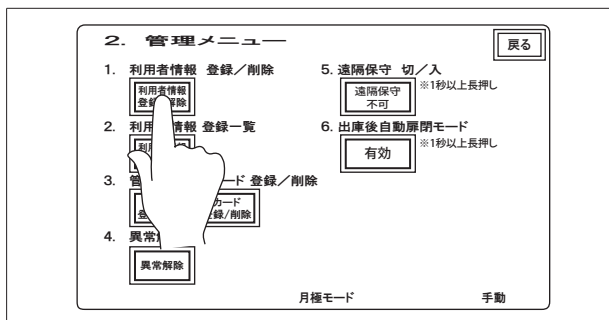
8. 本体操作盤扉を閉めます。

 タッチレス操作盤には本体操作盤扉はありません。手順7. にて完了となります。



5.1.5 利用者情報 削除[暗証番号式]

1. 管理メニュー画面の「利用者情報登録/削除」ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。



2. 利用者情報登録/削除画面が表示されます。
※表示が異なる場合があります。

3. グループNo.の▲▼をタッチして、グループNo.を指定します。
※表示が異なる場合があります。
グループNo.とは、収容台数に割り当てられるNo.となります。

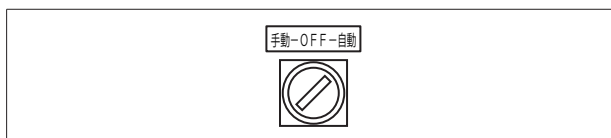


4. 暗証番号の「削除」ボタンをタッチします。

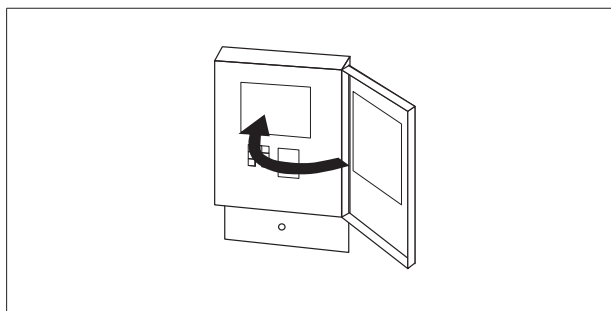
5. 画面が切り替わりますので“はい”をタッチします。
暗証番号削除操作で“はい”をタッチした後、“在車暗証番号ですが削除しますか？”と表示された場合、必ず“いいえ”をタッチし、暗証番号削除操作を中止してください。



6. 運転方式切り替えキーを〔自動〕に切り替えます。



7. 本体操作盤扉を閉めます。

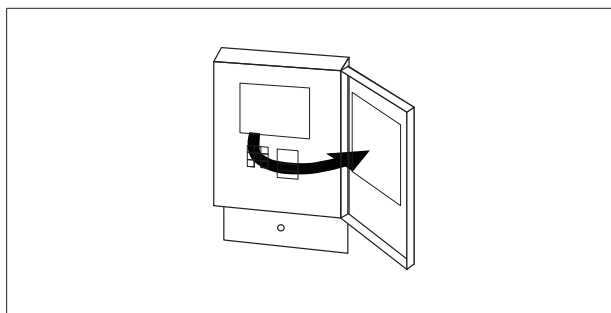


5.1.6 在空状況の確認

1. 本体操作盤扉を開けます。



タッチレス操作盤には本体操作盤扉はありません。手順2. より操作してください。



2. 運転方式切り替えキーを〔手動〕または〔M〕に切り替えます。



【LC操作盤】



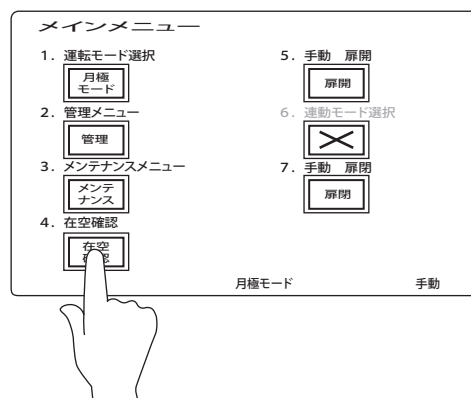
【タッチレス操作盤】

3. メインメニュー画面の〔在空確認〕ボタンをタッチします。

※表示が異なる場合があります。



LC操作盤には「扉閉」ボタンはありません。



4. 在空状況が確認できます。
- 在空状況に表記の記号は、以下を示しています。

□ : 空車パレット

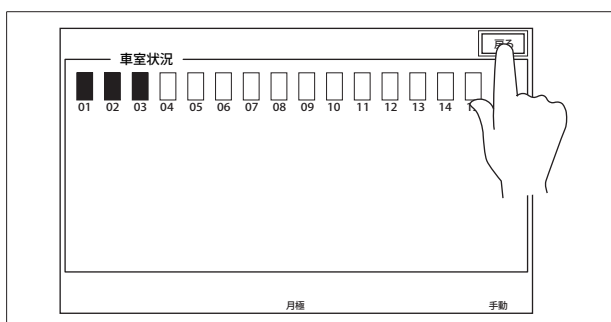
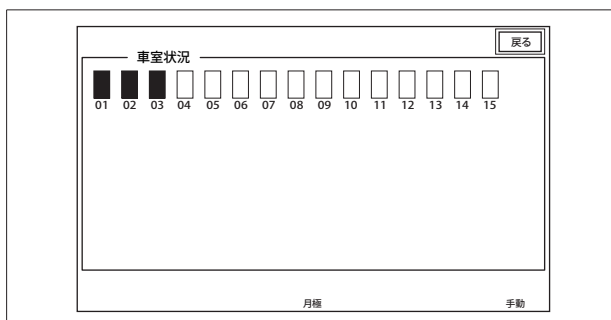
■ : 在車パレット

□ : 普通車 (NR) パレット

□ : ミドルハイルーフ車 (MHR) パレット

□ : ハイルーフ車 (HR) パレット

5. 「戻る」ボタンをタッチします。



6. 運転方式切り替えキーを〔自動〕または〔A〕に切り替えます。



【LC操作盤】

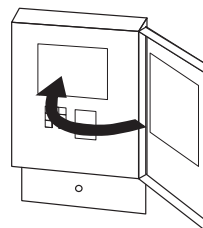


【タッチレス操作盤】

7. 本体操作盤扉を閉めます。



タッチレス操作盤には本体操作盤扉はありません。手順6. にて完了となります。



5.1.7 運転モード（月極モード／時間貸しモード）の設定

運転モードには、月極モードと時間貸しモードの2種類があります。

あらかじめ呼び出し方式に合わせて、運転モードを切り替えておく必要があります。

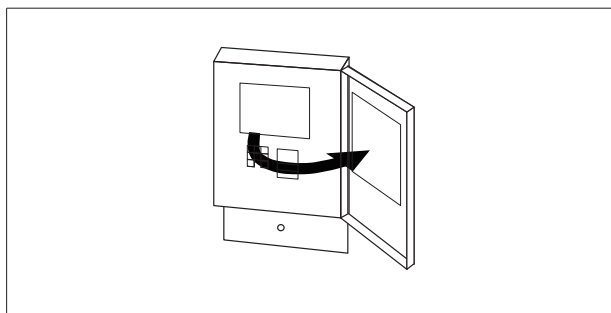
設定されている運転モードは、画面の下部に表示されています。

運転モード	内 容
月極モード	ICカード・暗証番号・操作用リモコン（オプション）のいずれかで認証操作を行い、目的のパレットを呼び出すモードです。 マンション、テナントビル、月極駐車場などの運用に適します。
時間貸しモード （LC操作盤のみ）	ICカード・暗証番号のいずれかで認証操作を行い、空ボタンまたは目的のパレット番号を直接入力することで、目的のパレットを呼び出すモードです。（操作用リモコン（オプション）は使用できません。） 時間貸し駐車場などの運用に適します。 ※タッチレス操作盤には時間貸しモードはありません。

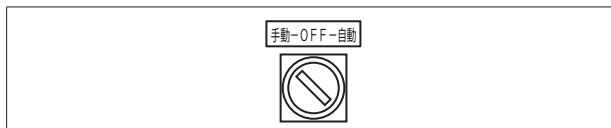
以下の手順で、運転モードを切り替えてください。

※タッチレス操作盤では切り替えできません。

1. 本体操作盤扉を開けます。

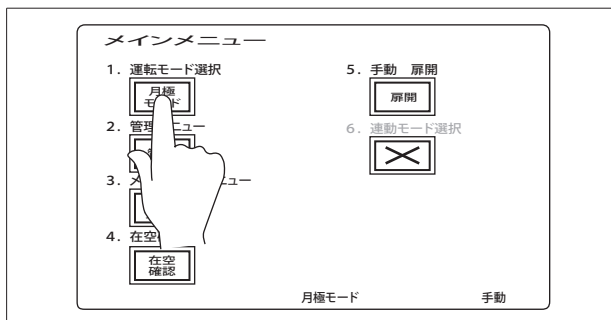


2. 運転方式切り替えキーを「手動」に切り替えます。

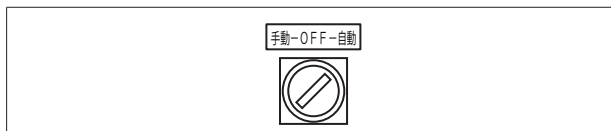


3. メインメニュー画面の運転モード選択のボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。

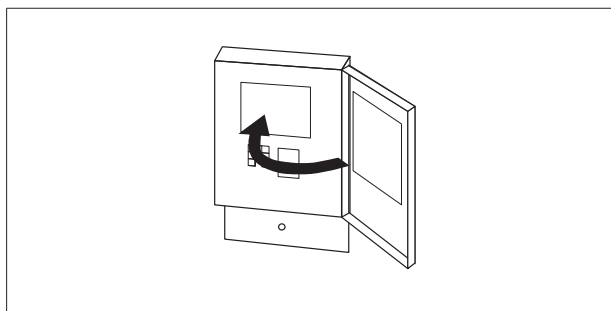
ボタンに選択中のモードが表示されています。ボタンをタッチする度に、運転モードが切り替わります。



4. 運転方式切り替えキーを「自動」に切り替えます。



5. 本体操作盤扉を閉めます。



5.1.8 音量調整

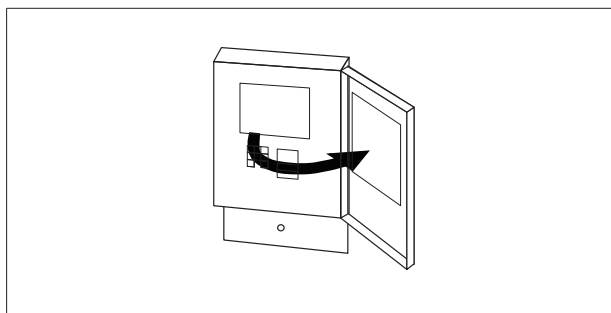
音量の調整については、保守点検事業者へ相談してください。

5.1.9 外置きターンテーブル（オプション）の作動確認

1. 本体操作盤または外置きターンテーブル用操作盤を開けます。

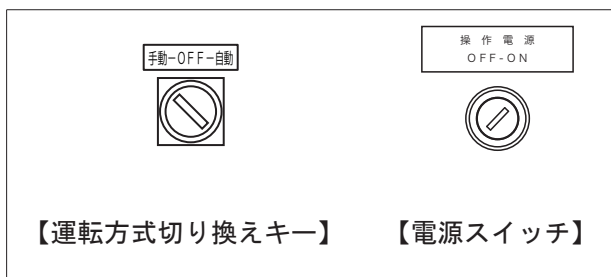


操作盤はない場合もあります。



※上図は、実際と異なる場合があります。

2. 本体操作盤で操作する場合は、運転方式切り換えキーを「手動」に切り替えます。
外置きターンテーブル用操作盤で操作する場合は、電源スイッチに、操作用キーを差し込み、「ON」の側にひねります。



※上図は、実際と異なる場合があります。

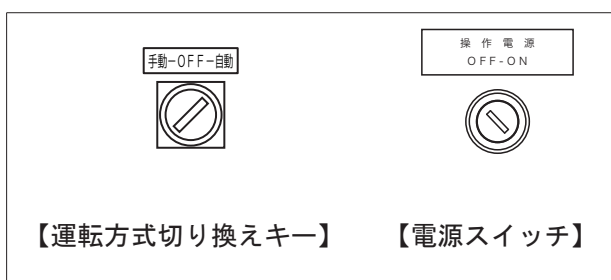
3. 操作盤の または のボタンを押して、ターンテーブルが左または右に正常に旋回することを確認してください。



操作盤の または のボタンを押している間のみ、ターンテーブルが作動します。

4. 操作盤の または のボタンから指を離して、正常に停止することを確認してください。

5. 本体操作盤で操作する場合は、運転方式切り換えキーを「自動」に切り替えます。
外置きターンテーブル用操作盤で操作する場合は、電源スイッチの操作用キーを「OFF」の側にひねり、抜き取ります。

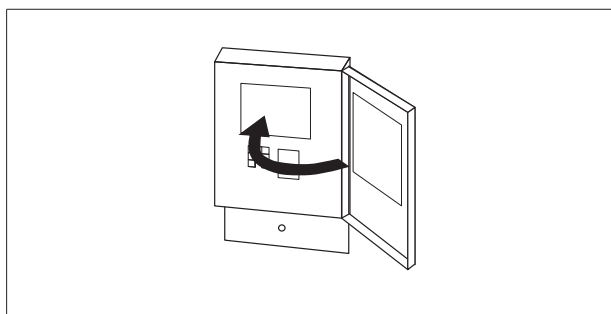


※上図は、実際と異なる場合があります。

6. 本体操作盤扉または外置きターンテーブル用操作盤扉を閉めます。



操作盤扉はない場合もあります。



※上図は、実際と異なる場合があります。

警告



ターンテーブル旋回時に車と接触するおそれがあります。

- ・旋回中はターンテーブルから離れてください。
- ・ターンテーブル上では転倒するおそれがあります。
- ・ターンテーブル上では、足元に注意してください。

注意



車のキーや、道具などで操作すると、誤操作、操作盤の破損による事故につながるおそれがあります。

- ・操作盤の操作は、指でおこなってください。

ターンテーブルの運転中に異音などが聞こえた場合は、重大な事故が発生したおそれがあります。

- ・非常停止ボタンを押し、ターンテーブルを停止させるとともに、管理者または保守点検事業者に連絡し、指示にしたがってください。



ターンテーブルが破損するおそれがあります。

- ・通過可能車の重量を超える車を通過させないでください。
- ・旋回可能な車以外は、ターンテーブルで旋回しないでください。
- ・浸水時はターンテーブルを使用しないでください。



ターンテーブルが浸水した場合は、保守点検事業者に連絡してください。

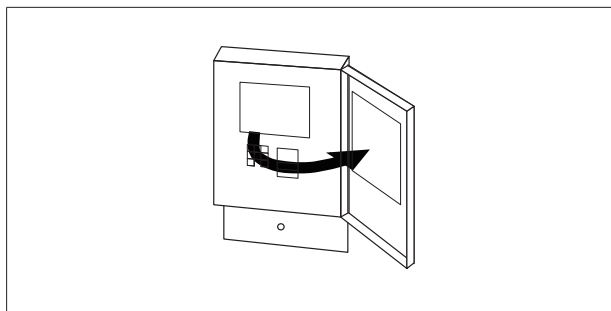
5.1.10 出庫後自動扉閉モードの設定

出庫後自動扉閉機能がある場合、モードの有効・無効を設定することができます。
設定を変更するときは、以下の手順で切り替えてください。

1. 本体操作盤扉を開けます。



タッチレス操作盤には本体操作盤扉はありません。手順2. より操作してください。



2. 運転方式切り替えキーを〔手動〕または〔M〕に切り替えます。



【LC操作盤】

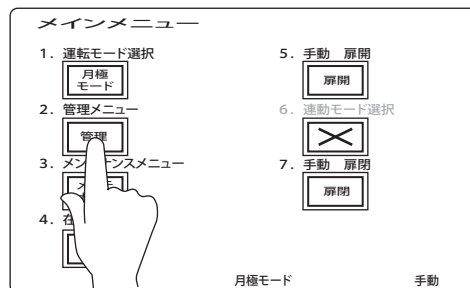


【タッチレス操作盤】

3. メインメニュー画面の〔管理〕ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。



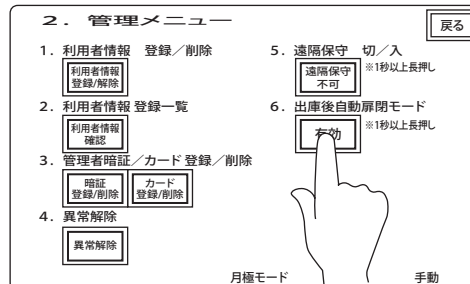
LC操作盤には「扉閉」ボタンはありません。



4. 管理メニュー画面の出庫後自動扉閉モードボタンを1秒以上タッチします。
※表示が異なる場合があります。



ボタンに選択中のモードが表示されています。ボタンをタッチする度に、有効・無効が切り替わります。



5. 運転方式切り替えキーを〔自動〕または〔A〕に切り替えます。



【LC操作盤】

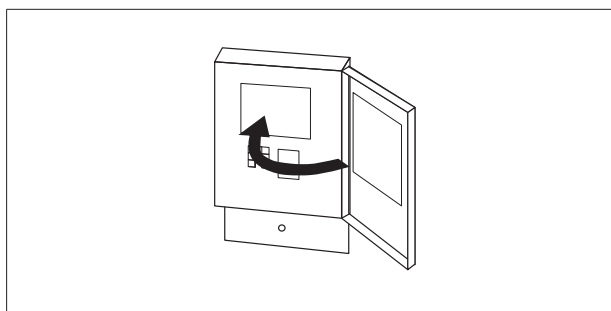


【タッチレス操作盤】

6. 本体操作盤扉を閉めます。



タッチレス操作盤には本体操作盤扉はありません。手順5. にて完了となります。



5.2 日常の点検



* 以下は、オーナー、管理者のみが対象の内容です。

パーキングを安全に使用するためには、パーキングの日常の点検をおこない、正常に作動することを確認する必要があります。

⚠ 危険



作業中であることに気付かずに入出庫操作をおこなってしまうと、人身事故のリスクがあります。

- ・点検作業時は、運転方式を手動に切り替え、本体操作盤と、出入口扉の目立つところに「点検中」の立札などで表示をして、作業中であることをパーキングの外から確認できるようにしてから、作業を実施してください。



⚠ 警告



パーキングが損傷した状態で運転すると、けがや事故につながるおそれがあります。

- ・パーキングの損傷が確認された場合は、すみやかに保守点検事業者まで連絡してください。

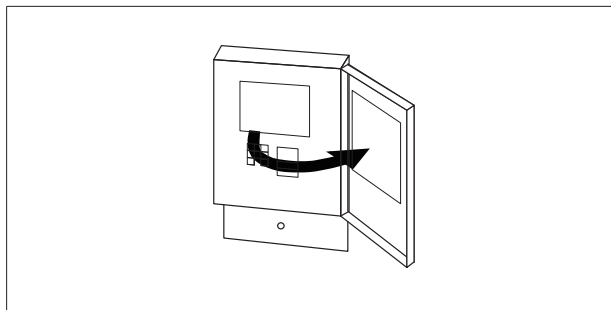
5.2.1 運転方式の切り替え（自動 ⇒ 手動）

パーキングの日常点検をおこなう際に、出入口扉の開閉をするため、運転方式を手動に切り替える必要があります。

1. 本体操作盤扉を開けます。



タッチレス操作盤には本体操作盤扉はありません。手順2. より操作してください。



2. 運転方式切り替えキーを〔手動〕または〔M〕に切り替えます。



【LC操作盤】



【タッチレス操作盤】

3. 画面の表示が次の内容であることを確認します。

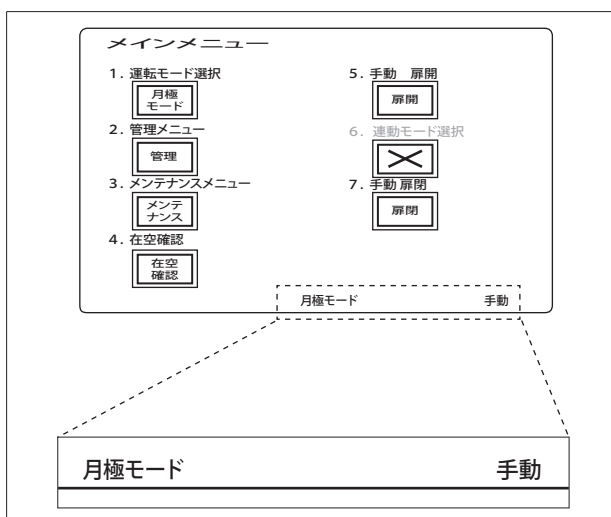
■表示画面：メインメニュー

■運転方式：手動

※表示が異なる場合があります。



LC操作盤には「扉閉」ボタンはありません。



5.2.2 出入口扉の作動確認

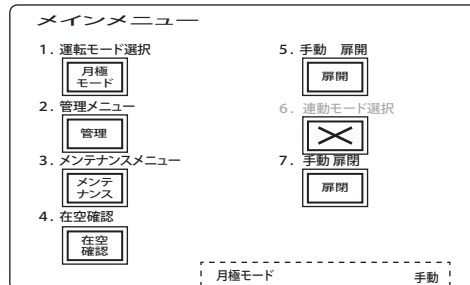
1. 画面の表示が次の内容であることを確認します。

■表示画面：メインメニュー

■運転方式：手動

※表示が異なる場合があります。

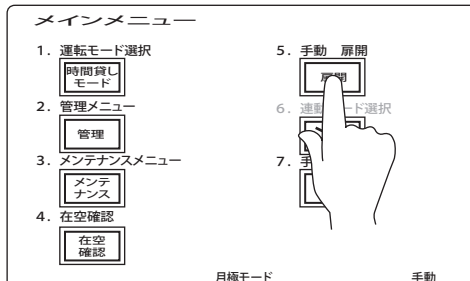
運転方式が自動の場合、▼「5.2.1 運転方式の切り替え（自動⇒手動）」を参照して手動に切り替えてください。
LC操作盤には「扉閉」ボタンはありません。



月極モード 手動

2. 扉開ボタンをタッチします。
※表示が異なる場合があります。

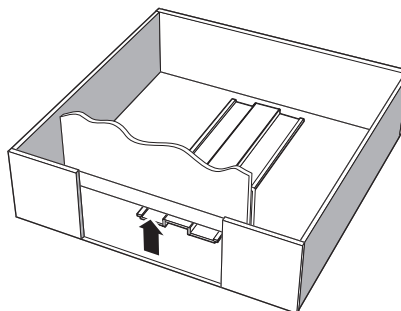
ボタンにタッチしている間だけ、扉は開きます。
ボタンから手を離すと、扉は停止します。



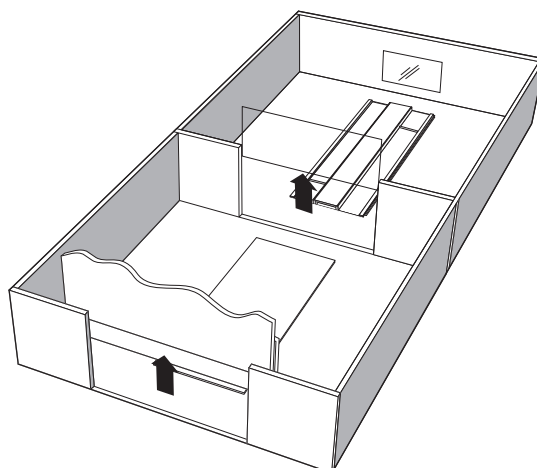
月極モード 手動

3. 出入口扉が開きます。
出入口扉が正常に作動することを確認してください。

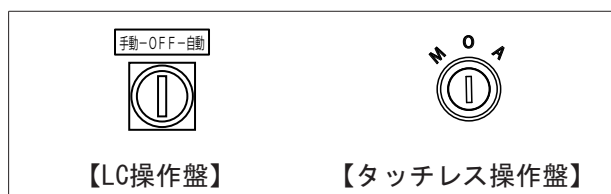
直接乗込縦列型の場合で、中間扉が閉じている時には、中間扉も開きます。



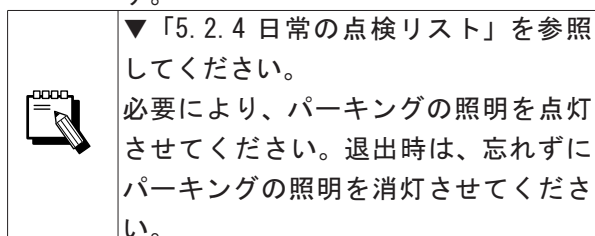
直接乗込縦列型



4. 運転方式切り替えキーを [OFF] または [0] に切り替えます。



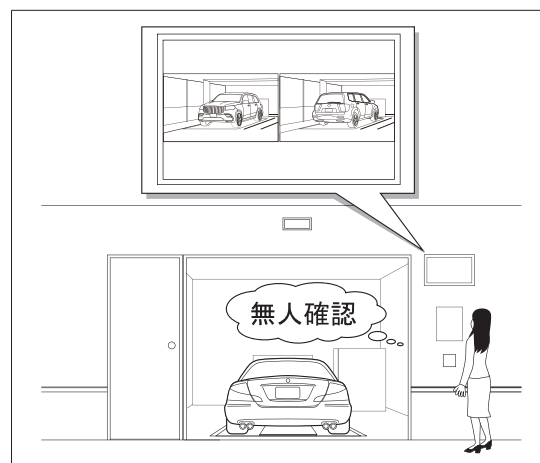
5. パーキングの日常の点検をおこないます。



6. パーキング内での作業完了後、パーキング内に人や障害物が残っていないことを目視および監視モニターにて確認します。
※監視モニター組込の場合、本体操作盤に監視モニターの映像は表示されません。
必ず目視で確認してください。

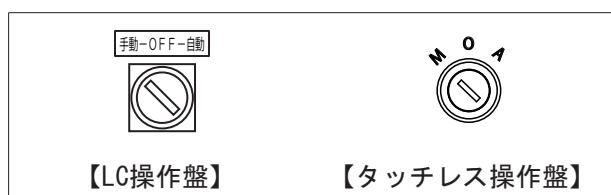


監視モニター組込



監視モニター外付け

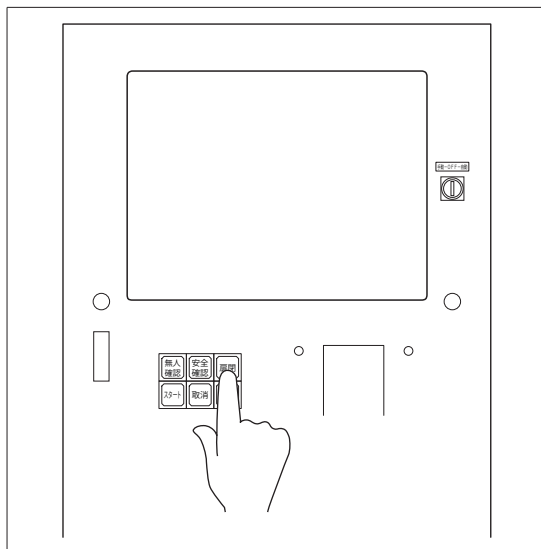
7. 運転方式切り替えキーを [手動] または [M] に切り替えます。



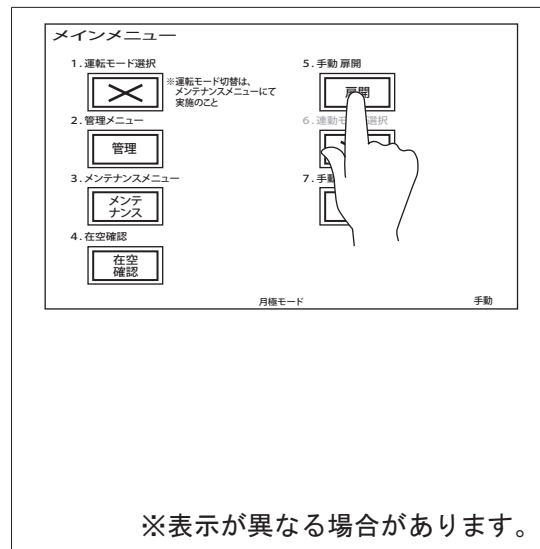
8. [扉閉] ボタンを押します。



ボタンを押している間だけ、扉は閉まります。ボタンから手を離すと、扉は停止します。

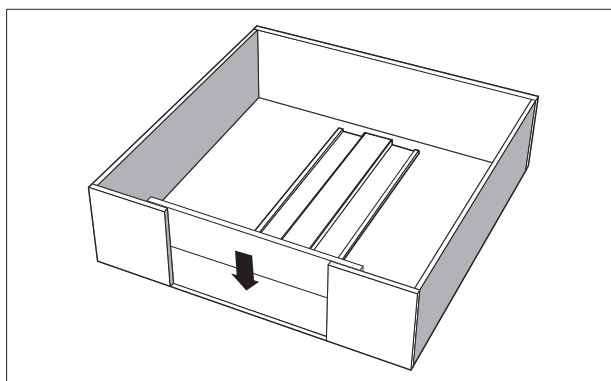


【LC操作盤】



※表示が異なる場合があります。

【タッチレス操作盤】

9. 出入口扉が閉まります。
出入口扉が正常に作動することを確認してください。

5.2.3 運転方式の切り替え（手動 ⇒ 自動）

パーキングの日常点検をおこなったあとは、運転方式を自動に切り替える必要があります。

■ 自動に切り替える

1. 画面の表示が次の内容であることを確認します。

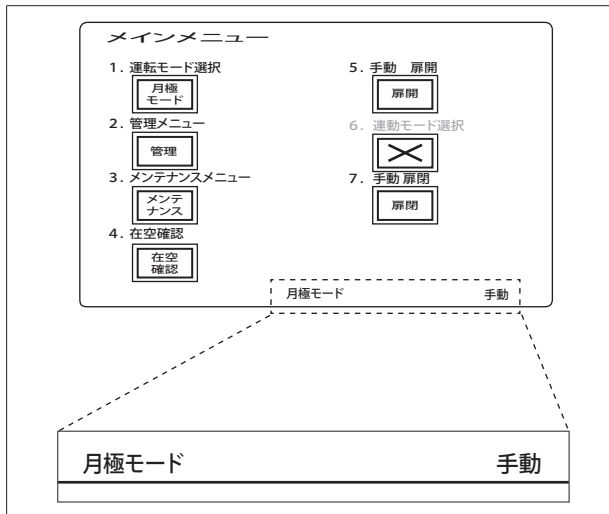
■ 表示画面：メインメニュー

■ 運転方式：手動

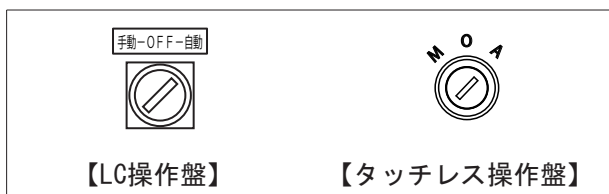
※表示が異なる場合があります。



LC操作盤には「扉閉」ボタンはありません。



2. 運転方式切り替えキーを〔自動〕または〔A〕に切り替えます。



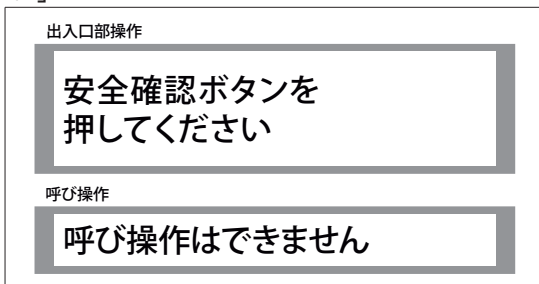
3. 次のメッセージが画面に表示されていることを確認します。

LC操作盤

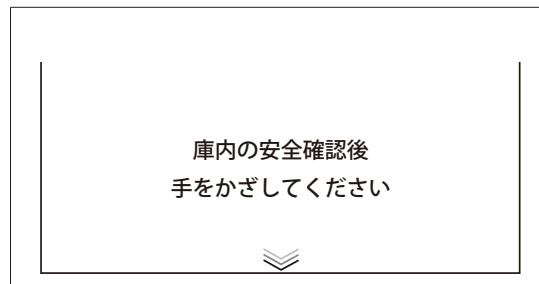
「安全確認ボタンを押してください」

タッチレス操作盤

「庫内の安全確認後 手をかざしてください」



【LC操作盤】



【タッチレス操作盤】

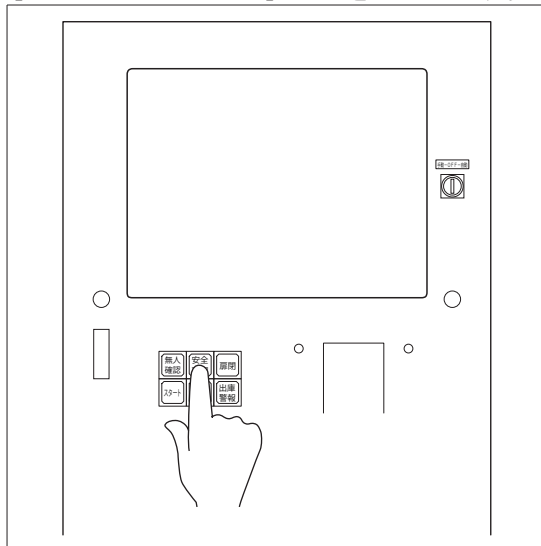
4.

LC操作盤

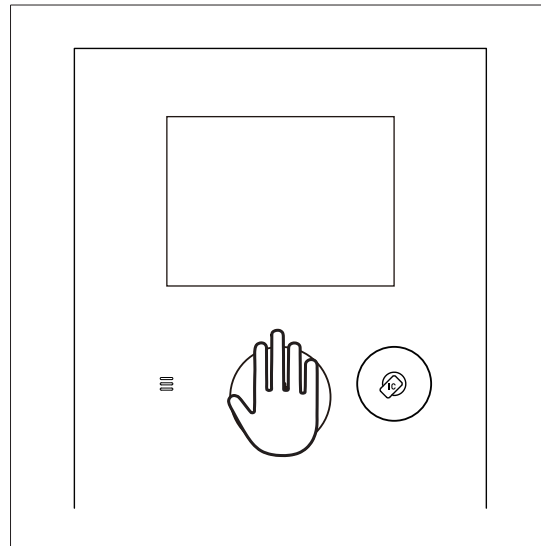
[安全確認] ボタンを押します。

タッチレス操作盤

[タッチレスセンサー] に手をかざします。



【LC操作盤】



【タッチレス操作盤】

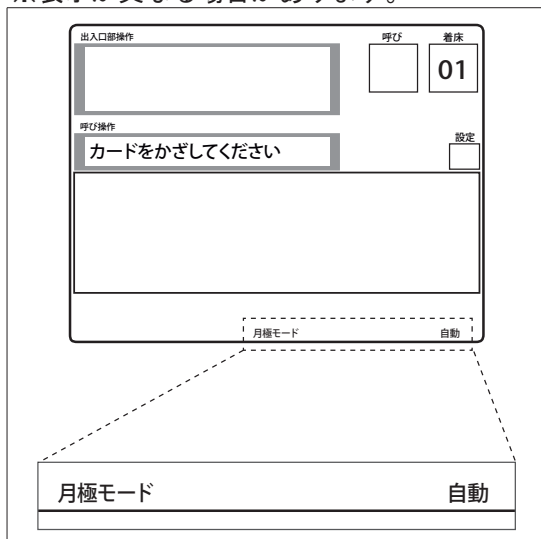
5.

画面の表示が次の内容であることを確認します。

■表示画面：初期画面

■運転方式：自動

※表示が異なる場合があります。



【LC操作盤】

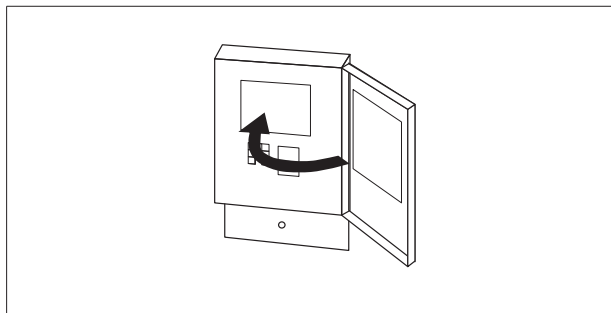


【タッチレス操作盤】

6. 本体操作盤扉を閉めます。



タッチレス操作盤には本体操作盤扉はありません。手順5.にて完了となります。



5.2.4 日常の点検リスト

運転開始前の日常の点検では以下の項目を確認してください。

点検項目	点検内容	参照箇所
パーキング の運転	出入口扉開閉の作動確認	▼「5.2.2 出入口扉の作動確認」
	監視モニターの 表示確認	▼「5.2.5 パーキングの点検」
パーキング の設備	外置きターンテーブル（オプション）の作動確認	▼「5.1.9 外置きターンテーブル（オプション）の作動確認」
	パーキングの照明の点灯確認 警報音の確認	▼「5.2.5 パーキングの点検」
	清掃箇所の汚れ確認	▼「5.2.6 清掃」
	非常用扉の施錠確認	▼「2.16 非常用扉」

5.2.5 パーキングの点検

以下の設備を点検してください。

照明が正常に点灯しない場合や警報音が正常に鳴動しない場合、表示器が正常に表示しない場合などには、保守点検事業者へ連絡して、対処方法を相談してください。

点検箇所	点検内容
照明	正常に点灯すること。
入庫指示灯	正常に点灯すること。
監視モニター	パーキング内の映像が正常に表示されること。
出庫警報灯 (オプション)	正常に点灯すること。 警報音が正常に鳴動すること。 障害物で遮蔽されていないこと。

5.2.6 清掃

「主な清掃箇所」について汚れ具合を確認し、必要な場合は清掃作業を実施してください。
作業をする場合は、以下の注意事項に留意してください。

主な清掃箇所

- ・警告銘板
- ・本体操作盤
- ・パーキング内（通路、車誘導ミラー、パレットなど）
- ・前面空地（外置きターンテーブル上含む）
- ・扉
- ・扉保護装置（オプション）

 危険

機械にまき込まれるリスクがあります。

- ・パーキングの自動運転中は、パーキング内の清掃をしないでください。

 警告

油、グリース、水などで滑り、けがをするおそれがあります。

- ・パレットの清掃は、足元に注意しておこなってください。

注意



パーキングや関連機器に破損や故障を引き起こすおそれがあります。

- ・警告銘板や本体操作盤の清掃に、シンナー、ベンジンなどは使用しないでください。



パーキングや関連機器、車などに破損や故障を引き起こすおそれがあります。

- ・格納した車から雪が落ち、駐車中の車に汚れが付着する場合がありますため、パレット上の雪を取り除いてください。



警告銘板、本体操作盤の清掃は、柔らかい布を水に濡らし、固くしぼってから、軽く拭くようにしてください。

ステンレス部分は錆びにくくなっていますが、使い方や清掃をおこなわないと錆びる原因となりますので、定期的な清掃作業をおこなってください。

操作盤タッチ部および人検知部が汚れていたり、雪や水滴が付着していると、センサーの誤動作の原因となります。

5.3 定期保守



※以下は、オーナー・管理者のみ対象の内容です。

パーキングは、設置後から磨耗・劣化しはじめます。

磨耗・劣化の早さや程度は、パーキングの特性や環境・使用状況によって異なります。

磨耗・劣化を見逃し放置すると、パーキングの寿命が著しく短くなり、故障や事故にもつながります。

磨耗・劣化をはじめとするパーキングの経年変化や、使用状況の変化に対しては、定期的にパーキングを点検し、状態を診断して、設計思想や経験にもとづいて対処することが必要です。

安全な運用に支障の生じるおそれが判明した場合には、必要な措置を講じてください。

特に安全にかかわる機能については、予防保全を行い、設備の安全な運用に努めてください。

管理者は、保守点検事業者定期的に保守・点検を依頼してください。

定期的な保守・点検を実施する保守点検事業者の選定の際には、「機械式駐車設備の適切な維持管理に関する指針（国土交通省）」を参考にしてください。

管理者は、利用者の安全な利用を担保するため、パーキングを適切に維持管理に向けた保守点検業務について、適切な知識、技術力、経験などと不具合発生時などの緊急時に、適切な対応ができる体制を有する保守点検事業者と、保守・点検に関する契約を締結し、安全性の確保に努めてください。



パーキングを正常な状態に保つためには、保守点検事業者との保守契約による定期保守が必要です。

当社指定の専門技術者以外の者がおこなった定期点検・修理や、当社指定以外の部品を使用した場合、不具合が発生しても当社は責任を負いません。

5.3.1 当社のメンテナンス体制および保守契約の概要

パーキングを利用される方々の安全はもちろん、パーキングを長期間お使いいただくためにも、保守・点検はとても重要です。

万が一の異常や故障の際も、日頃の保守・点検によって蓄積したデータをもとに、高度な技術と豊富な経験のあるエンジニアが対応させていただきます。

メンテナンス体制および保守契約の概要は、以下のとおりです。

- ・常時（365日、24時間）、不測の故障・事故に対応できる体制を整えています。
- ・点検・調整をおこない、結果を報告します。（定期保守）
- ・保全工事計画を作成し、部品交換や改修の適切な時期を提示します。

保守契約のご契約にもとづき、定期保守をおこないます。

詳しくは、当社の担当サービスセンターにお問い合わせください。

消火設備の点検・保守は消火設備用取扱説明書にしたがってください。

5.4 部品の交換周期



パーキングを適切に維持管理するためには、重要部品の定期的な交換が必要です。ここでは、重要部品の交換周期を下表に示します。

※下表に示す交換周期は、保証期間ではありませんのでご注意ください。

本表で示す重要部品の交換周期は、一般的な使用環境や使用頻度で利用されるパーキングの交換周期であり、交換工事の目安期間としてご利用ください。なお、パーキングの使用環境及び使用頻度によって重要部品の交換周期は異なりますのでご注意ください。詳しくは保守点検事業者から提案をしております保全工事計画をご覧ください。

パーキングを適切に維持管理するために必要な部品を定期的に交換しなかった場合は、部品の劣化による故障によって、事故やパーキング装置の損傷及び車の損傷などにつながる恐れがあります。管理者は、保守点検事業者から保全工事計画を受け取り、計画に従ってパーキングを適切に維持管理してください。

(保全工事計画とは、パーキングを適切に維持管理するために必要な保守点検事業者によって作成される保全を施す時期を示した計画です。)

管理者は、保守点検事業者と定期的に協議の場をもち、点検項目別に点検周期を確認し、交換周期の範囲内で適宜見直しをおこなってください。

なお、下表に示す部品は、パーキングの年代や機種・型式の違いなどによって、重要部品の手配に時間がかかる場合がありますので詳しくは保守点検事業者へご確認ください。

重要部品		交換周期	保全工事により、交換がなされない場合の危険性
駆動部関係	電動機	10年～15年	車・搬器・カウンターウエイトが落下し、パーキングや関連機器、車などに破損や故障を引き起こすおそれがあります。 また、事前の計画がなく事故発生後に交換工事を行うことになると、事前の手配がされていない電動機、減速機などは、手配に時間がかかる場合がありますので、計画的に保全工事を行ってください。
	減速機	15年 または 15年～20年	
	ブレーキユニット	5年～7年 または 10年～15年	

交換周期の違いは、保全工事計画書をご確認ください。

5. 点検・保守

5.4 部品の交換周期

重要部品		交換周期	保全工事により、交換がなされない場合の危険性
ワイヤーロープ		5年	パーキングを適切に維持管理するために必要な部品を交換しなかった場合、パーキングが正常に動作しないおそれがあります。車・搬器・出入口扉などの落下、パーキング機器と人の衝突・挟まれ、開口部からの転落、人の閉じ込めなどによる人身事故が発生し、死亡または重傷を負う可能性があります。 パーキングを適切に維持管理するために必要な保守点検及び保全工事計画に従った部品交換をおこなってください。 また、事前の計画がなく事故発生後に交換工事を行うことになると、事前の手配がされていないワイヤーロープやチェーンなどは手配に時間がかかる場合がありますので、計画的に保全工事を行ってください。
チェーン	カップリング用チェーン	10年～15年	
扉		7年～10年	
落下防止装置用バネ		7年～10年	
電気制御関係	電磁開閉器	7年～10年	
	シーケンサ	7年～10年	パーキングを適切に維持管理するために必要な部品を交換しなかった場合、パーキングが正常に動作しないおそれがあります。車・搬器・出入口扉などの落下、パーキング機器と人の衝突・挟まれ、開口部からの転落、人の閉じ込めなどによる人身事故が発生し、死亡または重傷を負う可能性があります。 また、事前の計画がなく事故発生後に交換工事を行うことになると、事前の手配がされていない電気制御機器は手配に時間がかかる場合がありますので、計画的に保全工事を行ってください。
	制御装置	7年～10年	
	インバータ	7年～8年	
	各種安全装置	7年～10年	
	リミットスイッチ	5年～7年	
	各種検知装置	5年～8年	
	操作盤	10年～15年	
外装		台風などの強風時	台風などの強風による外装の落下により、隣家や路上を通行中の人が死亡または重傷を負う可能性や走行中の車などの物損事故につながるおそれがあります。管理者は、台風や強風が発生する際には、事前に外壁の健全性の確認を行ってください。